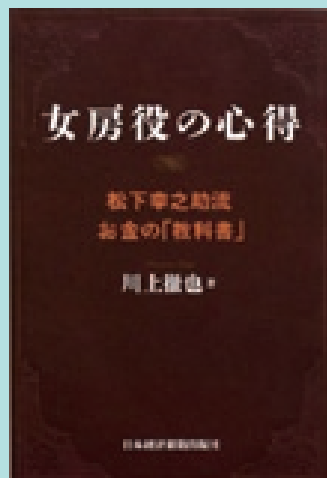


「女房役の心得」

— 松下幸之助流お金の教科書



発行：日本経済新聞出版社
著者：川上徹也
定価：一、五七五円（税込）

会社を変えるには、何より「お金が大事」
受け継がれる創業者のDNAを
パナソニック元副社長が語る。

〔BOOK〕データベースより

【評者】
金見 昭

パナソニック元副社長が語る経済改革

今日ほど世界経済学の「プロ」とか「専門家」という言葉が虚ろに聞こえるような時代を、これまで私は体験したことがない。

二〇〇八年九月の金融偏重の米経済の帰結で起きたリーマンショックが尾を引く、現在の欧州経済危機の解決策は「実体経済の重視」にあると、

私は考える。これは、日本の会社等（会社・店・個人企業・個人）経営の「本業重視」と呼ぶ。すなわち、ミクロ（会社等の経営改革手法）を、マクロ（国家経済再建）に応用するべしと、私は二〇〇七年から主張してきた。本書は、今の欧州経済・ユーロのマクロ経済危機の解決実行に役立つ実践的ミクロ経営・経済本である。本書は、松下幸之助さんという日本を代表する創業経営者のお金を大事にする企業理念と長い歴史の中での経営実

行の伝統の中で、経理担当副社長& CFOを勤めた川上徹也さん（現パナソニック経理大学学長）の汗と涙の企業改革実話本である。著者が経営改革の主役ではなく、社長中村邦夫さんの元で、思う存分に女房役としての実力を発揮できた感激いっぱい体験知識（empirical knowledge）の記念宝庫である。

二〇一二年五月の現代、ギリシャ、イタリア、スペインの国家経済危機を含んだヨーロッパ経済危機を、もし乗り切れないと、世界全体が経済危機に陥る可能性が大きい。日本人もその中にいる。このような情勢下で世界主要国の首脳や財政当局は解決策の検討を重ねているが、頼みの経済学者や経営学者は、全くと言ってよいほど実践的な解決策への提言力を持たない、いわば傍観者である。

欧州・ユーロの経済危機回避に役立つ

ヨーロッパの経済・経営危機が二〇一〇年に起きてから、世界中の一般の人々も世界経済について、自分のこととして心配しはじめ、いま二〇一二年八月に至っている。それまでは世界経済は、人々にとって考えなくていいほどのことだった。国家財政は世界中で、経済学者・経営学者が考え、それを参考に政治家が実行する

のが常であった。

しかし、今このような深刻な事態になって、しかも前述のように世界中のどんな立派な専門家と言われた経済学者・経営学者自身も解決策を全く見出せない。なおのこと、各国の大統領・首相・政治家にも、なす術がない。少し前までは、エコノミスト、「ラムニスト」、ストラテジストと言われる人たちも分析・解説をしていた。彼らは「このままだと世界中が大不況に陥るぞ」と言っ、我々一般庶民を脅している。その中で、どうしたらいいかと言える人が誰もいなくなった。

これまで述べたような未曾有の世界経済危機の中で、実学者川上さんの努力と運・縁と苦悩の体験実話に読者が感動するだけでは、あまりにも勿体ない。世界中の会社等（会社・店・個人企業・個人）の行動のお手本としての教科書にするだけでも、これまた勿体ない。喫緊時の欧州経済危機を救うための教科書として、本書から経済実学と経営実学を最も学ぶべきは、世界中の政治家と経済学者である、と私は自信を持って、烏計がまし

金見 昭（かねこ・あきら）

経済・金融・経営評論家、作家
日本CFO協会最高顧問
前金融監督庁（現金融庁）顧問